

横浜市における自殺の現状(平成24年)

－神奈川県警提供のデータの解析－

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8,000人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。平成18年10月、国を挙げて自殺対策を総合的に推進することにより、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図るため、「自殺対策基本法」が施行されました。また、この法に基づき、平成19年6月には、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が策定され、平成24年8月には、見直しが行われました。

横浜市でも自殺対策に係る庁内の密接な連携と協力により、自殺対策の推進を図るため、平成19年9月から横浜市庁内自殺対策連絡会議が設置されています。

感染症・疫学情報課では、横浜市こころの健康相談センターを通じて神奈川県警より「平成24年中の横浜市における自殺者」のデータの提供を受け、解析しましたので、その概略を報告します。

詳細は、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/>に掲載しています。

1 総自殺者数および性別自殺者数

平成24年の横浜市における総自殺者数は、627人(男性:433人、女性:194人)で、男性が69.1%を占めました。平成23年と比べ、総自殺者数(722人)で13.2%減、男性(478人)で9.4%減、女性(244人)で20.5%減でした。総自殺者数の減少傾向は、平成22年から24年にかけて続いています(対22年比で16.0%減)。これは、主に男性(特に30歳代)の減少が反映したものとみられます(図1)。

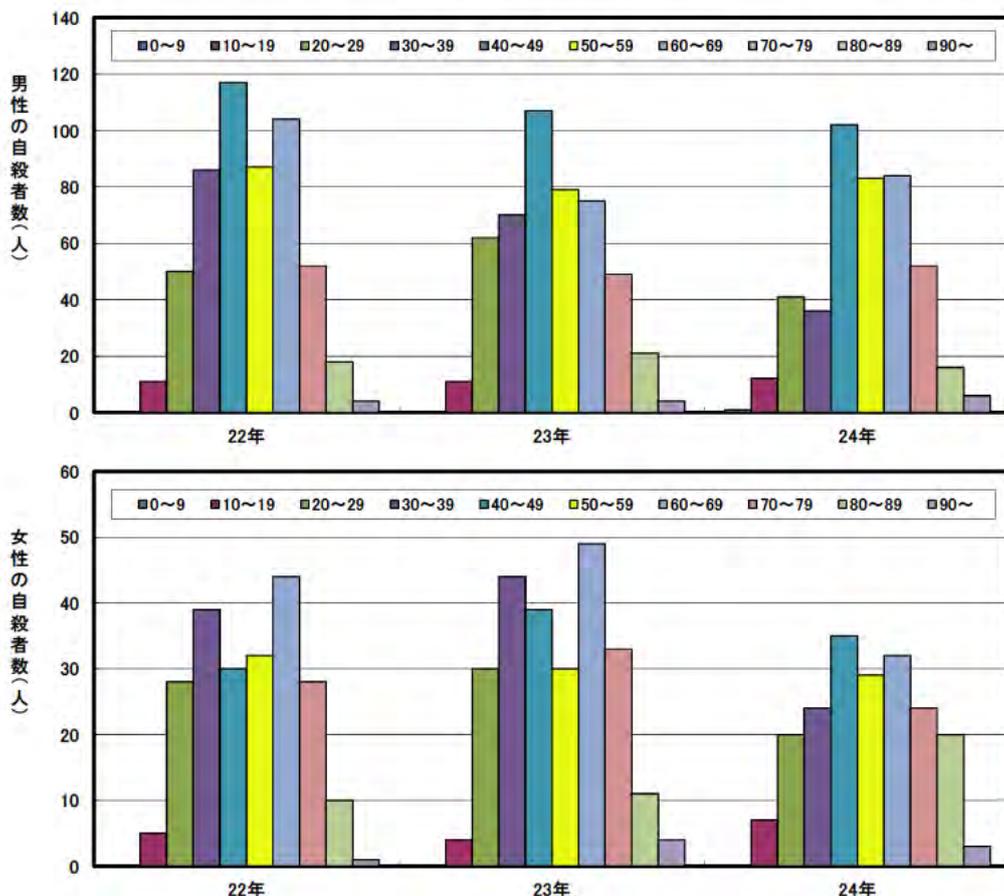


図1 年齢階級別自殺者数の推移

2 年齢階級別自殺者数

年齢階級別に自殺者数をみると、40歳代が137人(21.9%)で最も多く、次いで60歳代が116人(18.5%)でした。性別にみても、男女共に40歳代が最も多く、男性102人(23.6%)、女性35人(18.0%)でした。

男性では平成23年は40歳代を中心とする一峰性を示したのに対し、平成24年は40歳代以上のグループと30歳代以下のグループに二分された様相を示しました。

女性では平成23年は30歳代と60歳代を中心とする明確な二峰性を示しましたが、平成24年は40歳代と60歳代を中心とする比較的なだらかな二峰性を示しました(図1)。

3 月別自殺者数

月別に自殺者数をみると、10月が72人(11.5%)で最も多く、次いで3月と7月が共に64人(10.2%)でした。性別にみると、男性では10月が52人(12.0%)で最も多く、女性では6月が28人(14.4%)で最も多くなっていました(図2)。

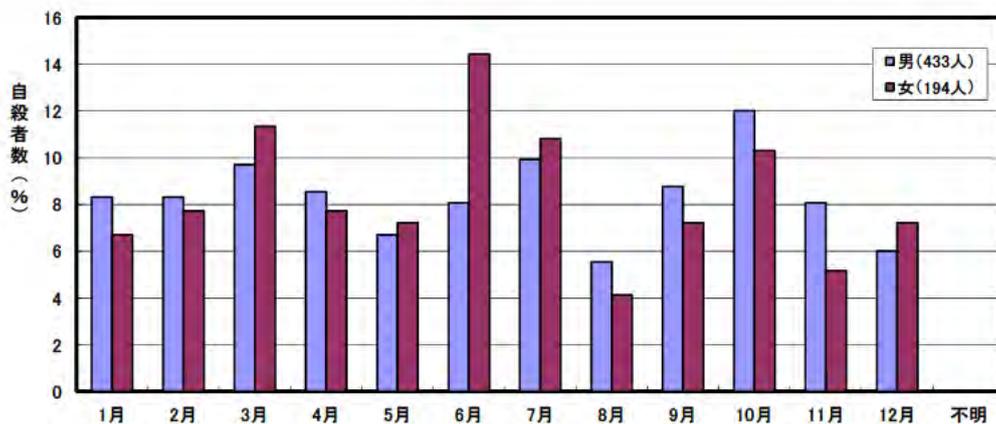


図2 月別自殺者数

4 曜日別自殺者数

曜日別に自殺者数をみると、金曜日が98人(15.6%)で最も多く、次いで木曜日が96人(15.3%)、火曜日が91人(14.5%)でした。性別にみると、男性では金曜日が74人(17.1%)で最も多く、女性では木曜日が31人(16.0%)で最も多くなっていました(図3)。

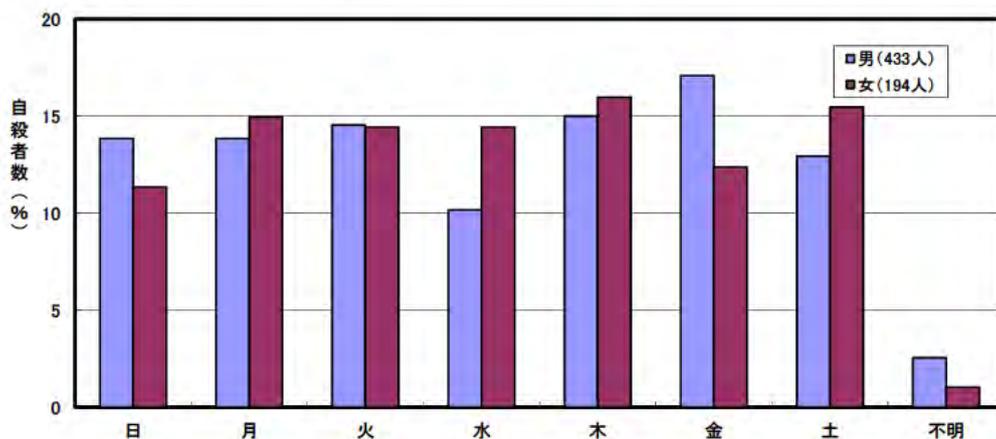


図3 曜日別自殺者数

5 時間別自殺者数

自殺の時間が判明した者487人(男性332人、女性155人)について、時間別に自殺者数をみると、0時台が37人(7.6%)で最も多く、次いで12時台が36人(7.4%)、10時台が29人(6.0%)でした。性別にみると、男性では0時台が26人(7.8%)で最も多く、女性では12時台が16人(10.3%)で最も多くなっていました。

6 自殺の場所

自殺した場所を20の項目に分類し*1、場所別に自殺者数をみると、「自宅」が404人(64.4%)で最も多く、突出していました。性別にみても、男女共に「自宅」が最も多く、男性250人(57.7%)、女性154人(79.4%)でした。次いで多いのは、男性では「公園」37人(8.5%)で、女性は「鉄道線路」11人(5.7%)でした。

横浜市で発見された自殺者627人(男性433人、女性194人)のうち、居住地が市内の者は582人(男性393人、女性189人)で、全体の92.8%を占めていました。

一方、自殺者の居住区と発見された区に違いがあるかをみると、居住区と同じ区で発見された者は538人(男性358人、女性180人)で、全体の85.8%でした。

さらに、自宅以外で自殺した者223人(男性183人、女性40人)についてみると、居住区と同じ区で発見された者は135人(男性109人、女性26人)で、自宅以外で自殺した者の60.5%を占めていました。

7 自殺の手段

自殺した手段を15の項目に分類し*2、手段別に自殺者数をみると、「首つり」が428人(68.3%)で最も多く、突出していました。性別にみても、男女共に「首つり」が最も多く、男性303人(70.0%)、女性125人(64.4%)でした。次いで多いのは、男女共に「飛降り」で、男性44人(10.2%)、女性30人(15.5%)でした。

8 自殺の場所×自殺の手段

自殺の場所ごとに自殺の手段の内訳をみると、男女共に「自宅での首つり」が最も多く、男性194人(44.8%)、女性117人(60.3%)でした。次いで多いのは、男性では「公園での首つり」37人(8.5%)、「その他の場所での首つり」28人(6.5%)で、女性では「自宅からの飛降り」16人(8.2%)、「自宅でのその他の手段」11人(5.7%)でした(表1)。

なお、上位3位までの傾向は、男女共に平成23年と同様でした。

表1 自殺の場所×自殺の手段(上位10位)

男性					女性				
順位	場所	手段	人	(%)	順位	場所	手段	人	(%)
1	自宅	首つり	194	44.8	1	自宅	首つり	117	60.3
2	公園	首つり	37	8.5	2	自宅	飛降り	16	8.2
3	その他	首つり	28	6.5	3	自宅	その他	11	5.7
4	高層ビル	飛降り	19	4.4	3	鉄道線路	飛込み	11	5.7
5	鉄道線路	飛込み	18	4.2	5	高層ビル	飛降り	6	3.1
6	自宅	練炭等	15	3.5	6	その他	飛降り	4	2.1
7	勤め先	首つり	13	3.0	7	自宅	服毒	3	1.5
8	自宅	その他	11	2.5	7	自宅	練炭等	3	1.5
8	乗物	練炭等	11	2.5	7	自宅	刃物	3	1.5
10	自宅	刃物	10	2.3	10	福祉施設	首つり	2	1.0
10	自宅	飛降り	10	2.3	10	福祉施設	飛降り	2	1.0
					10	ホテル・旅館	首つり	2	1.0
					10	海・湖・河川	入水	2	1.0
					10	その他	首つり	2	1.0

9 職業カテゴリ

職業カテゴリ別に自殺者数をみると、男女共に「無職者」が最も多く、男性225人(52.0%)、女性154人(79.4%)でした。次いで多いのは「被雇用者・勤め人」で、男性136人(31.4%)、女性26人(13.4%)でした。

ほかにも、原因・動機(判断資料の有無)、自殺未遂歴、及びそれらの項目の組み合わせ等について解析しています。結果については、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/>をご参照ください。

*1自殺の場所

自宅、下宿・寮、学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、高層ビル、駅構内、鉄道線路、乗物、路上、公園、社寺境内、田畑、海・湖・河川、池・沼、山、その他

*2自殺の手段

首つり、有機溶剤吸引、服毒、練炭等、排ガス、その他のガス、感電、焼身、爆発物、銃器、刃物、入水、飛降り、飛込み、その他

なお、横浜市では、精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るための専門機関として、「こころの健康相談センター」を設置しています。

URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kokoronosodan-center/>

Tel: 045-671-4455

【 感染症・疫学情報課 】